

淀川のワンドに いってみよう！



地引網での外来魚駆除

発行 国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所
〒573-1191 大阪府枚方市新町 2-2-10
電話 072-843-2861 (代表)
<http://www.kkr.mlit.go.jp/yodogawa/>



お問い合わせは、
淀川河川事務所
河川環境課まで
お願いします。



上流側からみた城北ワンド群

Let's Go
WANDO of YODOGAWA



淀川って どんな川?

淀川について

淀川は、滋賀、京都、三重、奈良、大阪、兵庫の2府4県に広がる流域面積8,240km²の大河川です。多くの支川が流入する琵琶湖から、ただ一本だけ流出する瀬田川は、京都に入ると宇治川となり、さらに大阪府との境付近で桂川、木津川が合流して淀川となって大阪湾に注いでいます。なお、これを、淀川水系といいます。

水が豊かな一方、繰り返された氾濫の歴史

上流に琵琶湖があることに加え、三つの大きな支川はそれぞれ気候条件が異なることなどから、淀川は一年を通して流量が豊富な河川となっています。このため、古くから利水事業が盛んであり、現在も上水道用水をはじめ、農業用水、工業用水など、生活や産業に欠かせない重要な水資源として広く活用されています。水が豊かな一方で、大阪平野は勾配がゆるく平らな地形であることから、ひとたび大雨が降ると洪水の大きな被害に悩まされてきました。そこで、堤防を築いたり、川の流れを変えたり、川底を掘ったりといった治水事業が古くから行われてきました。現在では、それらの河川改修によって、淀川流域の安全性が向上しました。

生きものの宝庫、ワンド

河川改修の結果、淀川の安定性は高まりました。残念ながら河原にたくさんあった、淀川の生きものたちの大切なすみかであるワンドやタマリと呼ばれる池のような環境は、大きく数を減らしてしまいました。また、増水によって川が氾濫することも少なくなり、時に氾濫する環境を好む川の生きものにとっては困ったことになってしまいました。そのため、淀川では今、ワンドの大切さを再確認するとともに、ワンドの再生が進められています。

そこで、淀川のワンドがどのようにして生まれたのか、そして今どのようになっていて、どんな生きものが息しているのか、これから一緒に淀川のワンドの世界をのぞいていきましょう。

目次

- 淀川ってどんな川? 1
- 淀川の今昔とワンドの成り立ち 3
- 淀川のワンドにすむ希少な魚・イタセンバラ 5
- 淀川のワンドの中をのぞいてみよう 7
- 淀川のワンド 9
- ①城北ワンド 11
- ②庭窪ワンド 12
- ③楠葉ワンド 13
- ④唐崎ワンド 14
- ワンドについて 15
- ワンドの魚・貝類・植物 17
- 鳥を観察する 19
- ワンドのまわりの生きもの 20
- 外来種について 21
- ワンドをもっと知る・活動に参加する 22

よどがわすいけい 淀川水系



うどの 鶴殿のヨシ原

75haものヨシ原が広がる。雅楽の楽器「ひちりき川」は、今も鶴殿のヨシが使われている。

おかげさ 淀川大堰

河口から約10kmの位置にあり、水を利用するため、海水が淀川に上がってくるのを防ぐ。

ひがた 河口の干潟

細かい土砂のたい積と、潮の干潟のはたらきによって汽水域にできる干潟は、上流から流れ込む有機物を分解し水をきれいにする。干潟はワンドと同じように生きもの宝庫で、新しい干潟の再生工事も進められている。

びわこ 琵琶湖

日本最大の湖。世界有数の古い湖で、固有種も多い。

さんせん 三川合流部

桂川・宇治川・木津川の3つの大きな河川が合流する地点。改修により現在のかたちになったのは、明治から大正時代。

かつて大湿地帯で、巨大な棕池という大きな池があった(今は干拓され水田地帯に)。

滋賀県内の400以上の河川・水路が琵琶湖に流入する。琵琶湖から流れ出るのは瀬田川のみ!

せたがわらいげき 瀬田川洗堰

琵琶湖から流れ出る水量をコントロールし、琵琶湖と淀川の洪水を調節する。

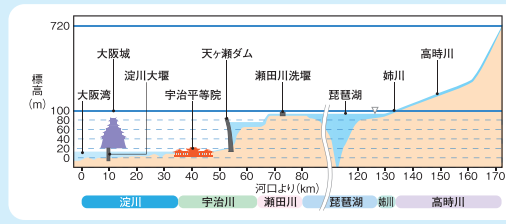
あまがせ 天ヶ瀬ダム

洪水防止に大きな役割を果たしている。1964年に淀川水系で最初につくられた多目的ダム。高さは72m。

淀川のワンド群

かつての淀川修築工事がきっかけとなってできた、淀川を象徴する水環境。

Q 今の淀川はもう洪水の心配はなくなった?



A 洪水の危険性を小さくするため、河川改修を行っています。

大阪市内のほとんどの土地は、標高が淀川の水面より低いため、洪水の被害を受けやすく、万が一、洪水などで堤防が決壊した場合、市内の94.9%が氾濫危険区域内に含まれます。そのため、上流のダムや堰で、流量の調節を行い、堤防で市街地や農地を守っています。さらに、標高が海面より低い土地も多いので、高潮の影響も受けやすくなっています。そのため、堤防や水門で守っています。

ワンドに いってみよう!

淀川の今昔と ワンドの成り立ち

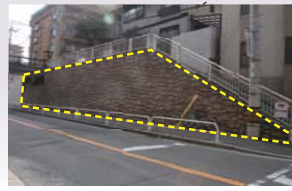


古代～中世 洪水とのたたかい

大阪平野には多くの川が流れ、洪水が人々を悩ませました。このため、淀川では古くから堤防が築かれてきました。



日本書記や古事紀にも登場する、日本最古の堤防とされる茨田堤跡の碑(寝屋川市)



中世に豊臣秀吉が淀川に築いた堤防(文禄堤)の名残。堤防の上は、大阪と京都をつなぐ道(京街道)としても使われました。(守口市)

江戸期 舟運で繁栄

大阪と京都をむすぶ水運(舟運)を軸に、物や人の移動が活発になり、大阪は「天下の台所」として栄えました。



伏見の船着場(京都)



八軒屋の船着場(大阪) (淀川兩岸一覽より)

明治期 さらなる発展へ

さらなる発展のために蒸気船(外輪船)が航行できるよう、浅い淀川で水深を確保するための水制工が行われました(★)。



蒸気船とワンド

- <明治～昭和の主な改修>
- 1875年 淀川修築工事(★)
 - 1896年 淀川大改修(新淀川の開削、宇治川付替)
 - 1946年 巨椋池の干拓
 - 1964年 天ヶ瀬ダム完成
 - 1983年 淀川大堰完成

昭和期～現在 安心・安全を求めて

大都市となった大阪を洪水から守るため、ダムや堤防の建設や、川幅を拡げ直線化する河川改修が行われました。それらは大きな効果を生みましたが、ワンドやタマリ、また増水時に河川敷が水をかぶってできる、生きものにとって大切な湿地環境が減りました。

ワンドは生物多様性のみなもと

水制工がきっかけとなってできた淀川のワンドは、今や大都市の中で、水に親しみやすいエリアとなっています。ワンドには、浅い水辺や水制工の石組、砂底や泥底、水草の群落、本流との様々なつながり方など、多様な環境があります。また、干拓によりなくなった巨椋池に似た環境も再現されており、全国的に希少な生きものも見られます。



フナ釣りをする人も多い

現在のワンド

ワンドの成り立ち

大阪～京都をスムーズに移動したい! 願いかなえた水制工

水制工とは、川岸に構造物を設置する工法のことです。明治初期に始まった淀川修築工事では、雑木を束ねた粗朶(そだ)をマット状に組み、杭で固定して石で沈める粗朶沈床による水制工が、オランダ人技師ヨハネス・デ・レーケによって、日本で初めて行われました。これにより、幅広く浅い流れを川の中央に集めて水深を確保し、また、その水路を曲げて流れを緩やかにすることで、外輪船が航行するのに適した水量と水流をつくりだしました。そこに土砂がたまり、ワンドが形成されました。舟運で大阪を発展させたいという人々の強い期待から、偶然にも淀川のワンドはうまれたのです。



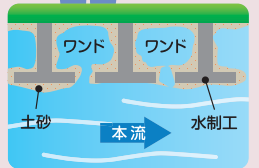
技師デ・レーケ



粗朶沈床を埋めこむ様子 (昭和32年撮影)



水制工の平面配置図



水制工に土砂がたまっていき、淀川にワンドがうまれました。

淀川の河道の移り変わり



1968(昭和43)年

水制工によって流れが蛇行させられ、両岸には多くのワンド。増水時には河原に浅い水辺が大きく広がり、そこで魚たちが産卵し、稚魚が育った。



2013(平成25)年

本流の幅が大きく広げられ、直線化。両岸の河原には増水によっても水につかりにくい高さまで土砂が積み上げられ、レクリエーション需要の増大もあり河川公園に。その結果、多くのワンドが失われ、増水時にも浅い水域が広がりにくくなった。

ワンドに
いってみよう!

淀川のワンドにすむ 希少な魚 イタセンバラ

きれい! この魚はなに?

淀川のワンドには、イタセンバラというちょっと変わった名の希少な魚が生息しています。淀川とともにイタセンバラが分布していた濃尾平野の方言が名前の元になっており、「板」のように薄く、「鮮」やかに輝く「腹」をもつ魚という意味であるとされています。

また、その平たい形から、「銭のように平たい」ということで「鏝銭(びたせん)平」が由来という説もあります。(出典:亀井(2000)タナゴ魚名考) 体長10cm前後のタナゴの仲間、卵を産む秋ごろになると、オスの体は紫紅色に輝くようになります。



淀川のシンボルフィッシュ『イタセンバラ』

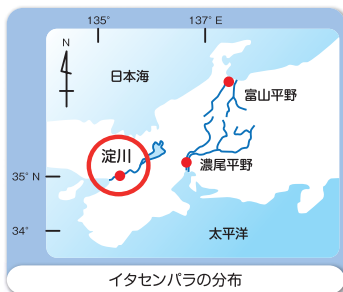
イタセンバラは、水位の増減が大きく、雨が降ると水がたまり、渇水期には干上がったり、淀川大堰ができる前の淀川のワンドの環境に適応した生態特性をもっています。そして、二枚貝など、多くの他の生きものとの密接な関係の上で成長します。そのため、イタセンバラが生息しているということは、多くの他の生きものたちも生息しているといえるので、イタセンバラは淀川の豊かさや生物多様性を象徴するシンボルフィッシュといえます。(→p.6)

国の天然記念物 ~国のたからもの~

もともと、富山平野、濃尾平野のほか淀川水系でしか見られない希少な種で、淀川水系の中では淀川が主要な生息地となっています。文化財保護法により国の天然記念物に、また種の保存法*1による種指定*2も受け、保全されています。

淀川でも確認数は減りつづけ、2006年ごろには野生絶滅に近い状態となり、野生の個体はほとんどいなくなりました。しかし、2009年から野生復帰が行われ、淀川で少しずつ増えてきています。

*1 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(環境省、2003年施行)
*2 国内希少野生動植物種



なぜ減ってしまったの?

もともとイタセンバラが生息していたと考えられる巨椋池などの、増水すると氾濫する遊水池が干拓によってなくなり、その代わりに生息地となったワンドも河川改修で減っていきました。そして淀川大堰の運用開始以降、それまでより水位の変動がなくなったこと、イタセンバラの生息に深く関わっている二枚貝の仲間がすめる浅瀬が減ってしまったことや、大增殖したブラックバスやブルーギルなどの外来魚に食べられてしまったことによると考えられます。



2013年10月10日イタセンバラ放流式

淀川をまもる① イタセンバラ野生復帰のころみ

淀川では2006年以降、野生のイタセンバラが確認されておらず、野生絶滅に近い状況にあると考えられていました。そこで自然に近い状態でふやした個体を淀川に放流する野生復帰のころみが、2009年から行われています。2013年には城北ワンドで、市民や流域の小学校が参加したイタセンバラの放流式が行われ、2015年には孫世代と考えられる502匹の稚魚が確認されました。今後、イタセンバラの野生復帰がますます期待されています。

イタセンバラのひみつ

貝の中に卵を産む魚です

イタセンバラは、生きている二枚貝の中に卵を産みつけるという、ユニークな習性をもっています。9月末から11月上旬にかけて、イシガイやドブガイ類といった二枚貝の中に産卵します。卵は4~5日ほどでふ化し、二枚貝の中で守られるようにしてじっと春まで過ごします。そして、5月頃になると貝の外へ泳ぎだし、8月にかけて一気に成長します。9月には親になり、卵を産むと、体力を使いきって多くは死んでしまいます。



二枚貝に産卵するイタセンバラのメス

貝の外へ吐き出されぬよう、卵どうしネバネバくっつきます



ぴったり! ワンドとイタセンバラの1年

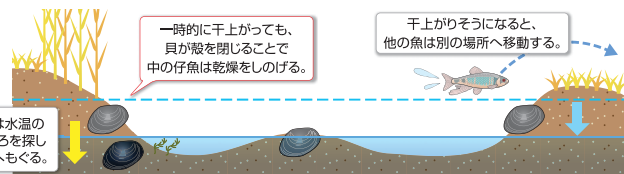
秋 9月~11月(繁殖期)

台風季節が終わるころ、浅いワンドの水辺で二枚貝に産卵します。



冬 12月~翌3月(越冬期)

二枚貝の中でふ化した仔魚は、低水位になって、二枚貝の中で乾燥をしのいで越冬します。



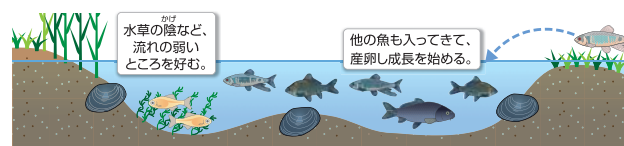
春 4月~5月(泳出期)

貝の中で越冬した稚魚は他の魚類が産卵する頃、貝から泳ぎだし、豊富なプランクトンを食べいて早く成長を始めます。

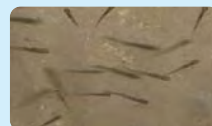


夏 6月~8月(成長期)

夏にかけて一気に成長し、秋には繁殖できるようになります。



春の早い時期に、貝から泳ぎだしたイタセンバラは、夏にかけて急速に成長します。



貝から泳ぎだしたばかりの稚魚(4月)



5月上旬の稚魚



成長した稚魚



2013年7月20日の外来魚駆除

淀川をまもる② 外来魚駆除

淀川のワンド周辺は、国内外の別の場所から入ってきた生きものが異常にふえてしまい、もともとすんでいたイタセンバラなどの生きものすみかをうばってしまうという問題がおきています。そこで、市民団体などが中心となって、イタセンバラを放流できる環境を取り戻すため、ワンドで外来魚の駆除を行っています。特に城北ワンドでは、定期的な駆除活動に加えて、春と秋に「外来魚駆除釣り大会」も開催し、活動の輪をひろげています。

ワンドに いってみよう! ワンドの中を のぞいてみよう

ワンドの中はどうなっているのかな? ワンドにも、川とつながっているもの、普段はつながっていないもの等、いろいろなワンドがあります。実際にワンドに行ったら、ワンドの中がどのようになっているかを想像しながら、全体の様子を眺めてみましょう。

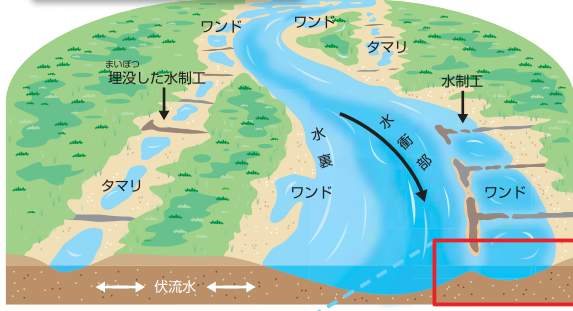
なぜ? ワンドの豊かな生物多様性

淀川のワンドは、人が創り出した自然のなかで、とびきりの優等生です。河川改修の石積みや骨格にして、川の流れと堆積した土砂が加わり、多種多様な自然環境が生まれます。本流とつながるもの、孤立するもの、浅いもの、深いもの、さらにそれらが連なることで、豊かな生物多様性を有する水生生物の楽園となります。そんな淀川のワンドに好んで生息しているのがイタセンバラです。河川改修や外来種の影響で一時は野生絶滅に近い状態まで追い込まれましたが、現在は行政や市民が一体となり野生復帰の取り組みが進められています。イタセンバラのすみやすい環境を整えることで、減少していた他の在来種も回復しています。皆さんも是非、保全活動に参加してみてください。



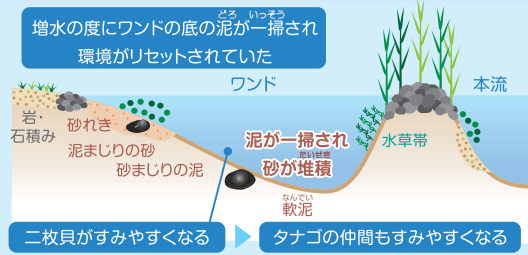
大阪府立水生生物センター
主幹研究員
上原 一彦さん

1970年頃までの淀川のイメージ



かつての淀川に比べて水位の変動が小さくなっていて、水の動きがなくなったり、外来の生きものがふえてしまったり、ワンドでは様々な問題が起きているのも事実です。そこで、ワンドの環境を良くするための工夫や試みが続けられています。

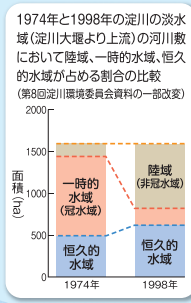
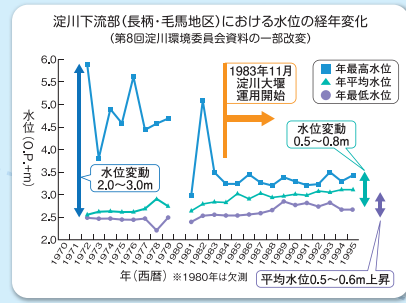
水位変動が大きかったときは...



現在は水位の変動が小さく、ワンドの底の砂や泥が汚れやすいため、水質が悪くても生息できる外来生物が増えやすい環境になっています。

在来種への影響が大きい外来種への対策として、淀川のワンドでは外来種の駆除活動を行っています。(→P.22ワンドをもっと知る・活動に参加するへ)

Q 1980年代以降、どのくらい水位の変動が小さくなったの?



A 左のグラフ 淀川下流部の水位は、1983年以前は1年の中で水位の変動幅が2~3mほどありましたが、流域の安全確保のため本流の幅や深さが大きくなり、淀川大堰が運用を開始して以降、変動幅は0.5~0.8mほどまで小さくなりました。また、平均水位も0.5~0.6mほど上昇しました。

右のグラフ 変動幅が小さくなったことで、浅瀬になったり干上がったりする範囲(冠水域、棒グラフの赤い部分)がとて狭くなりました。外敵が少なく餌が豊富な冠水域は、魚の産卵や稚魚の成長にとっても大切な環境です。

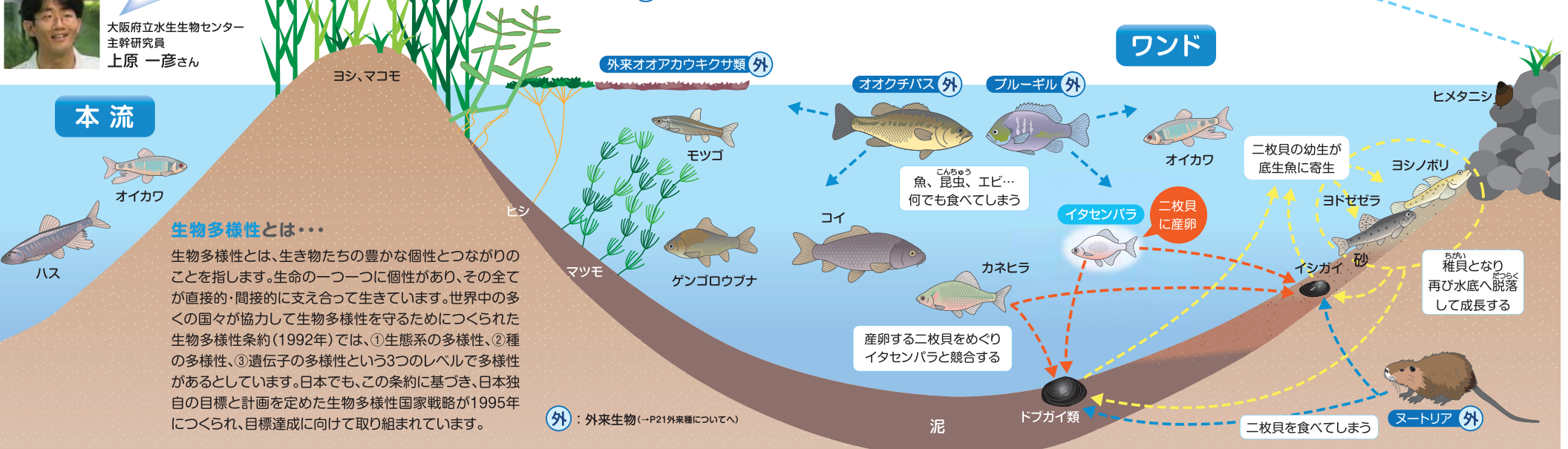
水位を昔に戻すのは難しいため、自然の水位変動に近いものとなるよう水位操作を改善しています。また、異なる深さに掘り下げたワンドを試験的に幾つか造成し、今の淀川の水位に適したワンドの在り方を模索する試みが行われています。(→唐崎ワンド P.14)



生物多様性とは...
生物多様性とは、生き物たちの豊かな個性とつながりのことを指します。生命の一つ一つに個性があり、その全てが直接的・間接的に支え合って生きています。世界中の多くの国々が協力して生物多様性を守るためにつくられた生物多様性条約(1992年)では、①生態系の多様性、②種の多様性、③遺伝子の多様性という3つのレベルで多様性があるとされています。日本でも、この条約に基づき、日本独自の目標と計画を定めた生物多様性国家戦略が1995年につくられ、目標達成に向けて取り組まれています。

ナガエツルノゲイトウ 外

外来オオアカウキクサ類 外

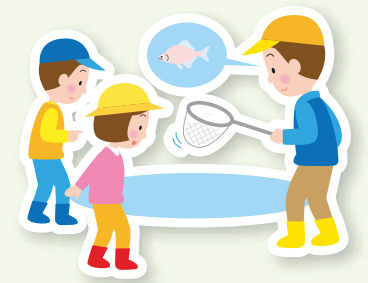


外: 外来生物 (→P.21外来種についてへ)

淀川のワンド



- : 各ワンドから2km程度以内にある中学校
- : 設備広場地区
- : 野草広場地区



しるきた ぐん 城北ワンド群

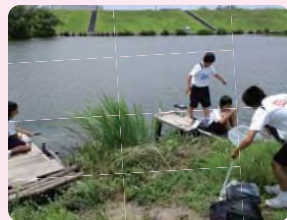


昔の姿を今に伝える、生き物の宝庫

- 河口からの距離: 淀川左岸11.4km~13km付近
- 所在地: 大阪府大阪市

特徴

- 1955年頃に現在のワンドの原型ができました。およそ20個のワンドから成り立っています。
- 河川改修工事によってワンドが次々と失われていく中、アユモドキが息し、イタセンバラの最大の生息地でもある城北ワンド群は、淀川の自然保護の象徴として大切に守られてきました。
- しかし、1980年代以降、本流の幅と水深が大きくなったことに加えて、淀川大堰ができたことにより、大雨が降ってもほとんど水位が変わらなくなりました。増水時もワンドに水が被って水流で洗われることがほぼなくなったため、水質の悪化とともに汚れた泥がワンドの底にたまるようになりました。また、多くの魚や貝の産卵・成長に大切な浅い水辺がなくなり、さらにオオクチバスやブルーギルなどの外来魚、ナガエツルノゲイトウやミズヒマワリなどの外来植物が増えました。
- そこで、外来種駆除やワンドの干し上げなど、ワンドの環境を保つ試みが行われ、少しずつ外来魚が減ってきています。
- イタセンバラが息できる環境が整ったワンドでは2013年10月10日にイタセンバラの放流が行われました。



水辺の自然を思いっきり楽しむ



カルガモ親子にじっと見入る

城北ワンドのここがおすすめ!

私たちは、クラブ活動でよく城北ワンドを訪れています。城北ワンドに来ると、街中で自然と触れ合う機会の少ない生徒たちは、広々とした自然豊かな風景の中で心から喜び、水辺の自然を楽しむ様々な体験ができます。水制工の石の上をつたい、やぶの中へ入って探検する。石をひっくり返したら水生昆虫やヒル、プラナリア、小さな貝等を見つける。地引網、外来魚駆除釣り大会で生まれて初めて魚を釣り上げて大喜び。ワンドごとの環境の違いや来るたびに違うワンドの風景に気づく。清掃活動で多くの人と一緒にゴミを集め、私たちが今、自然を守っていることを実感する…。私は豊かな自然を生徒と共に楽しんでいます。



大阪市立旭陽中学校: 中山 伸幸さん

アクセスマップ

- ・バス: 京阪本線土居駅より徒歩6分の「守口車庫前」より大阪市バス34系統(大阪駅前行)で約7分、「城北公園」下車、徒歩10分
- ・駐輪場、駐車場: 淀川河川公園赤川地区の駐車場(9時~17時開場、6~8月は19時まで)
- ★ビューポイント① 堤防の上。目の前にワンドらしい風景が広がります。
- ★ビューポイント② 菅原城北大橋。全景が見通せます。絶景です。



にわくぼ 庭窪ワンド



昔の姿を今に伝える、もっとも歴史あるワンド

- 河口からの距離: 淀川左岸16.4km~17.2km付近
- 所在地: 大阪府守口市

特徴

- 城北ワンド群に次いで規模が大きく、城北ワンド群より古い、昔ながらの姿を残したワンドです。
- 水制工に溜まった土砂は、ワンドを仕切る堤防のように土手を作り、かつてはそこにはヤナギが並木のように並んで枝葉を伸ばし、すばらしい景観をつくっていました。土手の斜面には、ヨシが群生し、斜面の裾ではウナギツカミやミゾソバなどの花が夏から秋に水際をピンク色に染めていました。
- しかし、最近では、ヤナギは見られるものの、その下にはミズヒマワリ、ナガエツルノゲイトウ、外来オオカウキクサといった外来種が盛んに生育し、かつてのワンドの風情は失われています。
- ワンドの前面に浄水場の取水口があり、ワンドの水が守口市をはじめ、ひろく府内へ水道水として届けられています。

庭窪ワンドのここがおすすめ!

歴史が古く、比較的昔の姿を保っているこのワンドを守るために、私は地元企業、大学、市民(釣り人や漁師)たちと、周辺清掃をしたり、ナガエツルノゲイトウやオオカウキクサなどの外来種駆除をしたりしています。浄水場の取水口があるワンドには、地元漁師の船が浮んでいます。庭窪レストセンターから堤防に向かって階段をのぼったところから見た景色がおすすめです。



淀川管内河川レンジャー: 山口 進さん (平成25年度現在)



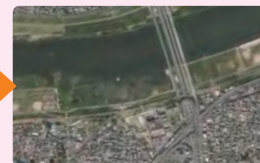
1970年頃の庭窪ワンド



清掃活動できれいに



1960年頃の庭窪ワンド



2013年の庭窪ワンド

アクセスマップ

- コース① 大阪モノレール「大日」駅より徒歩20分
- コース② 京阪バス「八番」下車徒歩5分
- 京阪守口市駅又は地下鉄谷町線守口市駅から、京阪バス(寝屋川営業所・門真営業所管内)1,3系統(八幡経由寝屋川市駅、佐太二番西詰行)「八番」下車徒歩5分
- ・駐輪場、駐車場: 淀川河川公園八雲地区の駐車場(9時~17時開場、6~8月は19時まで)
- ★ビューポイント① 庭窪レストセンター前の階段から堤防が上がったところ。
- ★ビューポイント② 大阪府庭窪浄水場の屋上。



③ 楠葉ワンド

最も上流に位置する、再生されたワンド

- 河口からの距離: 淀川左岸33.4km付近
- 所在地: 大阪府枚方市

特徴

- 淀川の最も上流に位置し、もともと5つのワンドがありましたが、1980年代に入ると、河床から流れだす土砂の量が増え、著しく河床が低下することで干上がるようになり、1990年頃には完全に姿を消してしまいました。
- そこで、かつてワンドのあった場所を低くなった河床に合わせて深く切り下げ、2002年から2009年までにあわせて8個のワンドを再生しました。
- ワンドは群として存在することで変化に富んだ生き物の生息環境ができ、その果たす役割は何倍にもなります。かつてのような淀川上流部での淡水魚貝類の供給源となり、下流部へその生息が拡大されることが期待されています。

楠葉ワンドのここがおすすめ!

枚方いきもの調査会は、最初の2つのワンドが再生されたときから生きもの調査を行っています。完成して年が浅いので、10年単位の経過観察が必要ですが、湿地の生きものへの定着が期待されます。ヨシ原はカヤネズミの巣が期待されます。楠葉ワンドには、アズマツメクサ、ホソバユスタデなど多種の希少植物が生育しているほか、オイカワや、ヌマチチブ、モツゴ、ヨシノボリ類、フナ類などの魚類、バッタ類、ハンミョウ類、ヤナギに来るハムシ類などの昆虫が観察できます。また、ヨシキリ、ホオジロ、カワウ、ダイサギ、コチドリなどの鳥も見られます。今は、2013年の台風で埋まってしまった4つのワンドの再生回復が望まれます。



枚方いきもの調査会: 代表幹事 石川 新三郎さん



植物観察会のようす



1970年頃の楠葉ワンド

アクセスマップ

- コース① 京阪本線「橋本」駅より徒歩30分程度。
- コース② 京阪本線「牧野」駅より徒歩50分程度。
- ・ 駐輪場、駐車場: 公共の駐車・駐輪施設はありません
- ★ ビューポイント① 一番下流のワンド付近の堤防の上
- ★ ビューポイント② 一番上流のワンド付近の堤防下の草地
- こんな楽しみ方も!
- コース②では、道沿いに多くの植物を見られます。観察会に参加して歩くのもオススメです。ただし、つみ取ったり、踏み荒らすのはやめましょう。



④ 唐崎ワンド

一番あたらしい、これからが楽しみなワンド

- 河口からの距離: 淀川右岸24.2km 付近 (芥川河口部)
- 所在地: 大阪府高槻市

特徴

- 芥川河口部にあたる唐崎地区には、かつては水制工によって形成された多くのワンドやヨシ原がありました。河岸にそって自然に少し高くなった部分の陸側へ広がる低いところにもタマリが存在し、湿地帯を形成していましたが、2008年時点では湿地帯が消失し、樹林化してしまっていました。
- このため、「かつてのワンド群、タマリ群や、湿地性植物が存在するような、増水すると水をかぶり、また乾くことをくり返すところの復元」を目標に、2010年から湿地環境やタマリの造成が行われています。
- ワンドの深さが浅いため、子どもでもワンドの中まで入ることができます。
- もともと様々な二枚貝の仲間が芥川に生息していることから、唐崎ワンドでさらに多くの二枚貝が育ち、イタセンバラ等の魚類が生息する場となることが期待されています。

唐崎ワンドのここがおすすめ!

芥川倶楽部は、天然アユの遡上をシンボルに芥川の豊かな生態系の回復と、その豊かな自然にふれることによる人々の心豊かな生活を目標に活動しています。これまで生きもの移動を妨げていた井堰に魚みちを設置、滞筋の改良などに取り組んできました。豊かな淀川があり、その淀川と多くの生き物が行き来する中で、初めて豊かな芥川が実現可能となります。芥川河口(右岸)近くにつくられた新しい唐崎ワンドが、減少しているタナゴのゆりかごとなり多くの魚が育ってくれることは、私たちの願いであり、また次の夢につながります。唐崎ワンドで最初にイタセンバラを発見するのはあなたかもしれません。さあ、観察に行きましょう!



芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク (愛称: 芥川倶楽部): 代表 田口 圭介さん



ワンドの中にじゃぶじゃぶと入れます



造成直後の唐崎ワンド

アクセスマップ

- ・ バス: 枚方市駅より京阪バス(高槻営業所管内)3, 7系統 (JR茨木・阪急茨木市駅行)で約15分「鷺打橋」下車徒歩15分
- ・ 駐輪場、駐車場: 現在整備中のため、近隣になし
- ※ 現在、新たなワンドを造成中のため、車で行けるのは芥川にかかる一番河口近くの橋である、鷺打橋の車止めまでとなります。
- ★ ビューポイント 最も北のワンドの河口側。
- こんな楽しみ方も!
- 唐崎ワンドは、造られたばかりか、今なお造成中のワンド群です。今後、これらワンド群がどのように変わっていくか、あなただけのポイントを見つけて観察していきましょう。



ワンドにいてみよう!



かんぽう 環境を守るために!

- ごみや余った釣り餌などは捨てずに持ち帰りましょう。飲み物などを流して水を汚さないようにしましょう。
- むやみにとると絶滅してしまう動植物もあります。
- 観察した魚や昆虫などは、元気な状態で元の場所へ放してあげましょう。
- 他から持ってきた動物を放したり、植物を植えたりすると、環境が変わって困る動植物もあります。動植物の持ち込みはやめましょう。
- 決められたところ以外に、バイクや自転車で乗り込むのはやめましょう。

自分を守るために!

- ワンドは急に深くなっていたり、泥や藻で足を取られることもあるので、特に気をつけましょう。
- 草むらにはマムシやハチが隠れていることもあるので、よく注意しましょう。
- 立ち入り禁止のところには絶対に入らないようにしましょう。
- 水辺で遊ぶときは、天気や水の量にも気をつけて、一人で遊ぶのはやめましょう。

危険な生物



カミツキガメ

ベトとして飼われていたものが野生化。かまれると指などは食いちぎられるおそれがある。



マムシ

増水すると上流から流れてくることがある。かまれたらあわてずすぐ病院へ。



スズメバチ科

低い羽音がしたら注意。カチカチという警戒音がするときは特に危険なので、急いで静かに立ち去ること。

強い毒をもち、黒いものを攻撃する性質があるので、特にスズメバチの活動が活発になる8~10月は、なるべく白っぽい服装を心がけましょう。



セアカコゲモ

メスの背中には赤い模様があり、毒を持つ。素手でさわらないこと。

つか 捕まえてみよう!



動きの速い魚やエビの仲間は、追いかげられるとあっという間に逃げてしまう習性があります。そこで、網で追いかけるのではなく、足で川底の泥や土を網に蹴りいれて土ごと網の中に追い込み、さっと網を引き揚げてみましょう。

下が平らになっているところが特徴です。川底に沿わせることができます。

※ワンドで生まれた多くの種類の魚の稚魚が泳ぎだす5~6月は、タモ網ですくわれた稚魚が弱って死んでしまう可能性があります。タモ網は使わず、ずっと水辺から観察しましょう。

探してみよう!

ワンドの浅瀬をよく見ると、ワンドの石組や、二枚貝のはったあとが見られます。



ワンドの石組

イシガイのはったあと

基本的な服装

- 持ち物 CHECK
- 雨具
 - ゴム長靴
 - 帽子
 - 時計
 - カットパン
 - ビニール袋



濡れた服などを入れるバッグなど(背負えるもの)

動きやすい服

水辺の生物を入れるポリ袋

ゴム長

- できるだけ肌を露出しないよう、長袖・長ズボン・ゴム長(長靴)・軍手を用意しましょう。
- 外来生物は、持ち帰らないようにしましょう。(外来種について→P21)

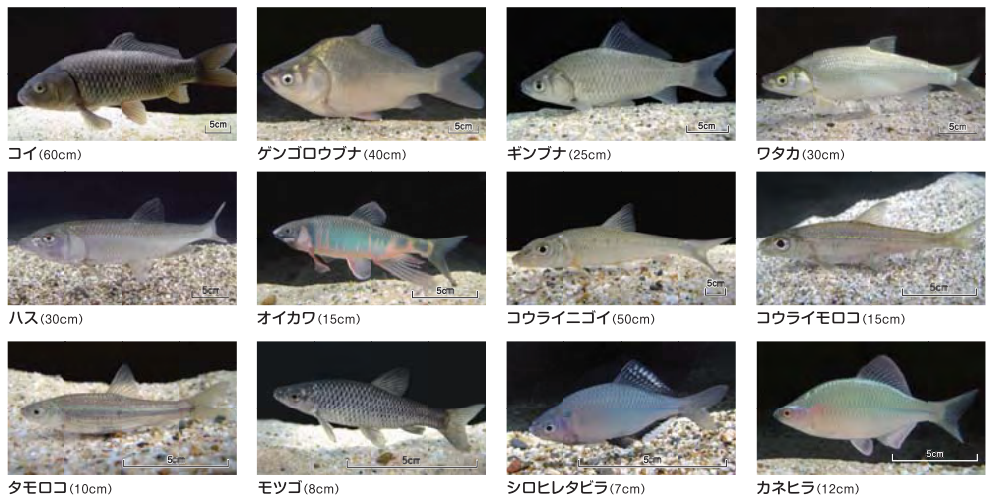
写真を上手に撮ろう!



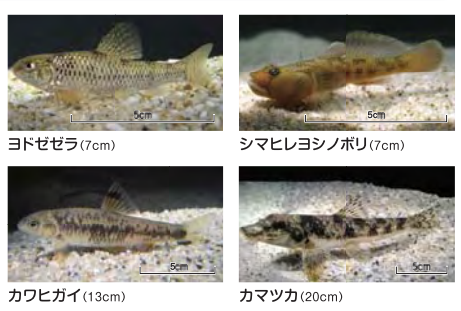
- 近寄ってみる
- アングルを変えて撮る
- 目線を花の高さまで下げる
- 近づけないので遠望で
- 手ぶれ防止には三脚を
- 鳥がよく訪れるポイントを探してチャンスを守つ
- 同じ場所でも違う時間帯に撮ってみる(朝と昼、夕方など)と、光の加減で違った表情に

ワンドに いってみよう! ワンドの魚・貝類・植物

岸からワンド中央まで広く生活する魚



岸の近くで生活する魚(底生魚)



少なくなった魚と貝



貝類



姿を消した魚と貝



植物観察の ポイント

水際、水面、水の中・・・生えている場所ごとに、
色々な植物の形があります。
どこにどんな植物が生えているか、観察してみましょう。



わかるかな?

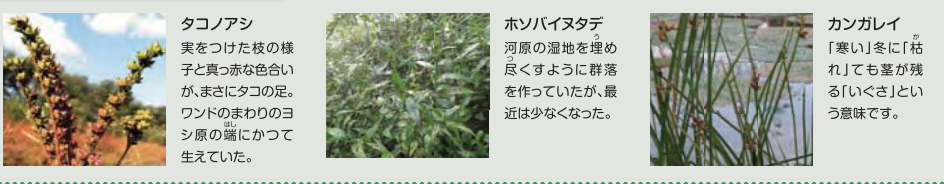
水際に群生しているヨシ、セイタカヨシ、オギはそれぞれとてもよく似ています。背が高いセイタカヨシは、ヨシのように葉が垂れさがらずずっと伸びています。ススキにも似ているオギは、穂が銀白色でふわふわしています。



この花な～んだ?



少なくなった植物



ワンドに いってみよう! 鳥を観察する

ワンドに いってみよう! ワンドのまわりの 生きもの

観察の ポイント

草原、木の上、水際、水面・・・ワンドのどこにどんな鳥がいるか、探してみましょう。鳥を見つけたら、飛び方や尾のかたち、動きなどを観察して見分けてみましょう。

同じ小鳥でも飛び方がちがったり、尾のかたちや動きもちがいます。

① ムクドリ
② ヒヨドリ
③ カワラヒワ
④ ハクセキレイ
⑤ ジョウビタキ
⑥ モズ
⑦ ツバメ
⑧ ヒヨドリ
⑨ カワラヒワ
⑩ オオヨシキリ
⑪ ヒドリガモ
⑫ スズガモ

ホバリングで魚を探す コアシサシ

尾を上げ下げする。おじぎした後、尾を回す地面によくいる。尾を小さくふる。ようにふる。

ヨシ原にオオヨシキリ

浅いところにサギ、シギ、チドリ

もぐって魚を探す カイツブリ

同じカモでも飛び方がちがう

水平に飛ぶもの、波うつように飛ぶもの。波の大きさや深さもちがう。

ヒバリ・ムクドリ

本流と分離しているワンド

さえずりも、種によってちがいます。ワンドで耳をすましてみましょう。オオヨシキリ「ギョギョシ、ギョギョシ、ケケケ」

季節ごとの違い

季節ごとの鳥
淀川のワンドは、ヨシやマコモなどに囲まれ、流れがほとんどないので、夏にはカルガモやカイツブリ、ヨシ原を好むオオヨシキリなどが子育てをします。冬には、多くのカモの仲間がきて、越冬します。

留鳥と渡り鳥
留鳥のアオサギ、カワウ、カイツブリ、カルガモは、一年を通してワンドで見ることができます。一年のうち限られた時期しか見ることのできない渡り鳥としては、夏鳥はコチドリ、オオヨシキリが見られます。春～5月に日本に渡ってきてきて繁殖し、秋に南の国へ渡っていきます。冬鳥はヒドリガモ、ユリカモメ、ハクセキレイが見られ、冬の間は日本で過ごし、春になると北へ渡っていきます。

<p>留鳥</p> <p>アオサギ ダイサギ、チュウサギ、コサギなど、他のサギより大きいので目立ちます。主食は魚です。</p>	<p>カイツブリ 水草などで、水面に巣をつくり、潜って小魚やエビを捕っています。</p>	<p>カルガモ ワンドやその近くの草むらの地上に巣をつくり、かわいひナも見られ、市民に親しまれています。</p>	<p>カワウ 20年ほど前から近畿地方でも数が増え、大量に魚を食べるのになって問題になっています。淀川でもよく見られます。</p>
<p>夏鳥</p> <p>コチドリ 砂利の河川敷で少数が繁殖し、春と秋にもワンドの水際で見ることができます。</p>	<p>オオヨシキリ ヨシ原で繁殖します。「ギョギョシ、ギョギョシ、ケケケ」と大勢でさえずるので目立ちます。</p>	<p>冬鳥</p> <p>ヒドリガモ 主食は水草ですが、春にはヨシの若葉も食べます。</p>	<p>ユリカモメ 朝、大阪湾のなぐらを飛び立ち、川沿いで日中を過ごし、夕方、なぐらに群れて帰ります。近年、夏も日本で過ごすものもいます。</p>
		<p>ハクセキレイ 日本では主に東北地方と北海道で繁殖しますが、近年、関西でも数が繁殖しています。</p>	

ヨシ原、開けた水辺、砂地など、ワンドには様々な環境が揃っています。それぞれの環境を好む様々な生きものが、ワンドには生息しています。

昆虫

アメンボのなかま

アメンボ

ナミアメンボとヒメアメンボがよく見られます。カメムシの仲間なので、捕まえると独特の臭いを出します。ミスムシ、タイコウチ、ミズカマキリなどもあります。黒くて小さなコガラシミスムシ、マツモムシなどは、底質悪化に伴って非常に少なくなっています。

マツモムシ

トンボのなかま

アオモシイトンボ

ウチワヤシマ

ワンドは水深や底質の変化が多いため、いろいろなトンボが見られます。アオモシイトンボなどのイトンボ類、オオサカサエなどのサナエ類、ウチワヤシマやマルタンヤシマなどのヤシマ類、コフキトンボ、コシアキトンボやチョウトンボなど、春から秋まで水辺は大変にぎやかです。最近はハグロトンボが姿をみせなくなっています。

わかるかな? 水際の植物にひっそり止まっているよく似たトンボ。見分けられるかな?

アオモシイトンボ

アジアイトンボ

両生類

ヌマガエル

ニホンアカガエルやトノサマガエル、ヌマガエルは少なくなりました。

爬虫類

クサガメ

クサガメ、イシガメは少なくなりました。耳のところに赤いもようがあるカメは外来種です。アオダイショウ、シマヘビなどヘビの仲間もいます。

哺乳類

カヤネズミ

アカネズミ、ハタネズミ、カヤネズミのほかコウベモグラやジネズミなどの小型哺乳類がいます。直径4～6cmの穴は、アカネズミやハタネズミの巣の入り口で、地中にトンネルや巣を作って繁殖します。アカネズミは雑食性で昆虫が大好きですが、草食性のハタネズミの巣の入り口は、食べ残しの草や糞などですぐ判ります。オギなど背の高い植物の地上30～150cmのところに葉で球形の巣をつくるカヤネズミは、体重が3～5gで、世界最小クラスのネズミです。

カヤネズミの巣

**ワンドの生きもの
についてもっと
知りたい人は・・・**

大阪府立水生物センター 図鑑学習ステーション
http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/zukan/

外来種について

- もともとはそこに生息していなかったのに、国外や国内の別のところから持ち込まれ、すみついてしまった生物を、外来種といいます。
- 淀川には動物ではオオクチバスやブルーギルあるいはヌートリアなど、植物ではボタンウキクサ、アレチウリなど多くの外来種が分布し、植物では**在来種4種に1種の割合で外来種が定着**しています。
- これらの外来種は、人の健康や農林水産業あるいは生態系へ大きな影響を与えています。
- 悪影響が大きなこれらの外来種を選定し、その悪影響を防止する目的で制定された法律が外来生物法(特定外来生物による生態系等にかかる被害の防止に関する法律)で、2005年に施行されました。
- 指定された外来生物(特定外来生物という。下記の**特**マークのついた種)に関しては、原則として
 - ① 輸入、② 飼養・栽培、保管・運搬、③ 放すことが禁止されています。
- これらの規定に違反すると、個人は3年以下の懲役か300万円以下の罰金、法人は1億円以下の罰金が科せられます。

水面をおおう外来植物

<p>特</p>  <p>外来オオカウキクサ類 アジア、アフリカ、南北アメリカ原産。水面をおおい、赤く見えるほど。同名の希少種*もあるが見分ける困難。 <small>*絶滅危惧II類(環境省)</small></p>	<p>特</p>  <p>ナガエツルノゲイトウ 南米原産。水面をおおう。最近増えており、駆除が行われている。</p>
<p>特</p>  <p>ミスヒマワリ 中南米原産。観賞用として導入された。水際や水面をおおい、高さ1mに。</p>	<p>特</p>  <p>ホテイアオイ 南米原産(ウォーターヒヤシンス)。観賞用として導入された。ボタンウキクサと共に最近減少中。</p>

水際の貝類





<p>特</p>  <p>カワヒバリガイ 東アジア～東南アジア原産。土砂などと共に運ばれてきたとされる二枚貝。</p>	<p>特</p>  <p>スクミリンゴガイ 南米原産。食用として導入された。水生植物やイネ、レンコンなど作物にも被害が出ている。赤くかたい、毒々しい色をした卵を水面近くの植物や石などに産む。</p>
---	---

必ず守ろう! 外来生物の予防3つの原則

- ① (国外から) **入れない**
- ② (飼っているものを) **捨てない**
- ③ (他の所に) **拡げない**

(外来生物被害予防三原則、環境省)

両生類・爬虫類・哺乳類

<p>特</p>  <p>ウシガエル 北米東部・中部原産。食用として持ちこまれた。夜行性。他のカエルが減るなど悪影響が出ている。</p>	<p>特</p>  <p>ヌートリア 南米原産。堤防に穴を開けるなど防災面でも問題が出るおそれがある。</p>
<p>特</p>  <p>ミシシッピアカミミガメ 北米南部～南米北部原産。ミドリガメの名でよく売られている。</p>	<p>特</p>  <p>カミツキガメ 北米～中米原産。かまれるととても危険。</p>

水底でふえる外来植物

オオカナダモ
南米原産。切れやすく、切れた部分から成長する。



本流と分離しているワンド

本流

在来魚を食べたり、在来魚と生息環境等で競合したりする外来魚

<p>特</p>  <p>オオクチバス 北米原産(別名ブラックバス)。釣り人によって導入された。他の魚やエビなどを食べるため淀川でも駆除が行われ、近年やや減少中。</p>	<p>特</p>  <p>ブルーギル 北米東部原産。他の魚の卵を食べるため淀川でも駆除が行われている。</p>	<p>特</p>  <p>カダヤシ 北米南東部原産。「蚊絶やし」として、蚊の幼虫ボウフラ駆除のために導入された。メダカとそっくりで、メダカの生息場をうばってしまう。</p>	
<p>特</p>  <p>タイリクバラタナゴ</p>	<p>特</p>  <p>カムルチー</p>	<p>特</p>  <p>タウナギ</p>	<p>特</p>  <p>ハクレン</p>



環境省
外来生物法
<http://www.env.go.jp/nature/intro>

ワンドをもっと知る・活動に参加する

淀川についてもっと知りたい!と思ったら・・・

淀川資料館

淀川の歴史、文化、自然を、地図や映像、多様な展示品により紹介。「淀川の環境」ゾーンでは淀川にすむ魚にも出会える。

〒573-1191 大阪府枚方市新町2-2-13
電話:072-846-7131
<http://www.yodo-museum.go.jp/>

大阪市立自然史博物館

ワンドを含めた大阪の自然について、常設展示室や特別展で学べる。隣接する花と緑と自然の情報センターでも無料の「大阪の自然誌」コーナーがある。

〒546-0034 大阪府大阪市東住吉区長居公園1-23
電話:06-6697-6221
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>

高槻市立自然博物館(あくあびあ芥川)

高槻市の自然を紹介する資料館。2階は淡水魚水族館、1階は高槻市内の鳥・哺乳類・昆虫類などを紹介。企画展や観察会、子ども自然ワークショップなどのイベントも開催。

〒569-1042 大阪府高槻市南平台5丁目59番1号
電話:072-692-5041
<http://www.omnh.net/aquapia/>

〒569-1042 大阪府高槻市南平台5丁目59番1号
電話:072-692-5041
<http://www.omnh.net/aquapia/>

イタセンバラなど、淀川の魚を見てみたい!と思ったら・・・

地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水生生物センター

イタセンバラの人工飼育など保全のための研究を進めている。センター1階の水槽には、淀川の在来魚、外来の魚たちが展示され、淀川の生きものについて目で見て学ぶことができる。

〒572-0088 大阪府寝屋川市木屋元町10-4
電話:072-833-2770
<http://www.kannosuiken-osaka.or.jp/biodiv/>

ワンドの活動に参加してみたい!と思ったら・・・

淀川管内河川レンジャー

河川レンジャーとは、住民等の参加による河川管理推進のため、住民と行政とをつなぐパイプ役のこと。庭窪ワンド、城北ワンド、点野砂州、綿殿のヨシ原など各地で外来生物駆除活動やごみ拾いなどを企画。防災意識の啓発や川の文化・歴史の紹介も行う。

<http://www.river-ranger.jp/>

イタセンバラ保全の活動に参加したい!と思ったら・・・


淀川水系イタセンバラ保全市民ネットワーク(イタセンネット)

行政、民間、研究機関をつなぐ、イタセンバラの保全のためのネットワーク。ワンド、イタセンバラに関する活動を、行政、研究機関、大学など様々な機関と連携して、市民参加で開催。

〒572-0088 大阪府寝屋川市木屋元町10-4
(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所 水生生物センター内
電話:072-833-2770
<http://www.itasenpara.net/>

きれいなワンドを未来に ごみを捨てるのはやめましょう

淀川のワンドは、生きものや私たちにとっても大事な環境であるにもかかわらず、ごみを捨てたままにする人が今後を絶ちません。そこで、淀川河川事務所では、流域の皆さんの協力のもと、毎年7月に「淀川ワンドクリーン大作戦」を実施し、ごみ拾いを行っています。淀川は、みんなの大切な財産です。ごみを捨てないようにしましょう。



淀川ワンドクリーン作戦で集められたゴミの山

このパンフレットの製作にあたりご協力いただいた皆様 (敬称略)

企画: 上原一彦、河合典彦
編集: 中山伸幸、山口進、石川新三郎、田口圭介、上原一彦
写真提供: 高田みちよ、中山伸幸、山口進、石川新三郎、田口圭介、上原一彦、河合典彦、光田重幸、石原肇、紀平肇、水道産業新聞社、地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所水生生物センター、枚方いきもの調査会、芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク、淀川河川事務所、淀川資料館、琵琶湖河川事務所